

## 相場師朗の株トレード道場無料講座 第2話

相場：皆さん、こんにちは。相場師朗です。

加藤：こんにちは、アシスタントの加藤満里子です。

さて、相場さん、第1話では、相場さんはチャートしか見ない。そのチャートは全てを表している。実際に年足のチャートを見せていただいたのですが、もう下値がそろっていて、本当にびっくりしました。

相場：あれは目からうろこでしょう？

加藤：はい。今まで全然気付かなかったです。やはりチャートというのは不思議だし、すごいんだなと思いました。

相場：チャートはすごいんだ。

加藤：すごいです。

相場：いつもそう言っています。

加藤：そして、日々勉強。そして、相場さんは進化を続けているというようなお話も伺ってきました。

相場：そうですね。自分の進化と教える方の進化、両方ですね。

加藤：実際に、皆さん、お待ちかねだと思うのですが、この第2話では、相場さんが実践されているトレード手法をご披露いただこうと思います。皆さんもどうぞ楽しみにしてくださいね。

それでは、まずは簡単に説明をお願いできますか。

相場：まず私の手法はうねり取りといわれておりまして、基本は、株価は上げ下げを繰り返している。これが基本思想です。上がっていきますね。そして、横ばい。買いが多いと上がるわけですね。売りと買いで、買いの方が多から上がっていく。そして、徐々に買いが細っていくから、売り買いが交錯して横ばっていく。やがて売りが強くなって下がっていく。

そして、ひとしきり下げると、売玉が、売る人がいなくなってしまうのですね。みんな、売ってしまうから。下げ止まって横ばい。そうすると、基本的には次は上げる場になるわけです。ですから、上げ、横ばい、下げ、横ばい、上げ、横ばい。ただ、これを繰り返しているだけです。これが真横に動くのではなくて、右肩上がりとか右肩下がりに動く。だから、読めなくなるということなのですが、基本は上げ下げを繰り返しているということですね。

3カ月とか半年とかいうもっと長いスパンで見ますと、それが3カ月おきに、あるいは半年おきにうねりをつくっていきます。上がった、下がったしているわけですから。私は上がっているときは買いで取っていくわけです。やがて横ばってくる頃に、次、下げるわけですから、買いを切らずに、次の下げのための売りをためていくわけです。下げ始めたら買いを切って、利益確定して、今度は空売りで下げを取っていくわけです。下げ終わると今度は横ばいになって上がる予定ですから、下げているとき、空売りで取って、横ばう寸前ぐらいに次の上昇のための買いを仕込んでいくわけです。そして、上げ始めたときに空売りを切って、この仕込んでいった買いで次の上昇を取る。こういう流れで、この上げ下げのうねりを、売りで買いで両方全部取っていく。これがうねり取り。

加藤：すごいですね。

相場：これは江戸時代、日本では米相場が盛んに行われていましたが、この米相場の時代に、本物の相場師たちはこのうねり取りを使って売り買いをしていました。

今度は、上げ下げが分かるだけではうまくいきません。流れが分かるだけではうまくいきません。今度はどこでどのように買うか。どこでどのようにふうに手仕舞いしていくか。

当然、世の中に出回っている本だとか、評論家だとか、アナリストが言っていることは、ここで買って、そこで買って、天井で売るんだぐらいなことを言っていますが、実際それはできないですから。

加藤：そのようにできたら、皆さん、利益が今もう出ていますもんね。

相場：なかなかそうはうまくいきません。今度は買う方法があります。分けて買う。いつ底に当たるか分からないのだから、ここかな、ここかな。最初1,000株買って見て、そしてまた1,000株買って見て、今度はそろそろと思ったら2,000株。よし、行けるとと思ったら5,000株。分けて買っていくのですね。あるいは売るときも、次、上がってきて、下がるわけですが、ここですべてに売るのはではなくて、少しずつ。だって、いっぺんに売った後、上がってしまったら大変なのだから。

加藤：そういうこともありますよね。

相場：ありますから。ところが、買いを持っていますから、売っても、空売りを入れて上がってしまっても、この買いがあるから、買いがプラスになるからいいのですが、やはりここで空売りを入れて、また上がってしまうけれども、空売りを入れて、少しここで空売りを入れて、そしてまた入れる。确实そうになった頃、また多く入れる。ここまで売ってきたものが全部、いっぺんにこう取れるわけです。

そのうねりを取っていくという意味でうねり取りなのですが、実は世の中、本が出ているのは林輝太郎さんだとか、それからバブルのときの高額納税者 1 位。1 年で 200 億円も上げたという是川銀蔵さんだとか、それから山種証券とか、山種倉庫だとか、山種美術館だとか、山種グループを築き上げた相場師。この人も相場師です。山崎種二さんだとか、皆さん、このうねり取りを実はやっていました。つまり成功者は皆さん、うねり取りなのです。

ということで、このうねり取りを現代のマーケットに合わせてアレンジしたのが、私が皆さんにお伝えしているうねり取りということになります。

加藤：それでは、相場さんに実際のトレードを見せていただきたいと思います。

相場：そうですね。では、トレードをやってお見せしたいと思います。では、画面の方を加藤さん、一緒に見ていきましょう。皆さん、画面の方を見てください。

まさにこれは住友金属鉱山。是川銀蔵さんが 1 年で 200 億、利益を出したということですね。私もこの住友鉱山は 10 年以上やっています。

加藤：そうですね。

相場：この画面の左下に表れておりますのが、0—0。これは左側が、今、自分が持っている空売りが何株か。そして右側が、自分が今持っている買いが何株か。今、空売りも買いも持っていない。

さて、ちょっとリーディングという方法。

加藤：リーディング？

相場：本を読む。Read。犬を引くリードではないですよ。リーディングね。昔、英語でやりましたね。リーダー。

加藤：ありましたね。

相場：リーディングです。読むという意味ですが、まずこれを見ていきましょう。住友金属鉱山、ここから見ていきますと、この緑の線が 20 日移動平均線です。そして、この赤い線

が5日移動平均線です。このブルーの線が60日移動平均線です。この線は気にしないでください。行きます。

今、株価は、60日移動平均線の上にあります。これは日足ですよ。5日移動平均線を割ってきました。下げてきたのですが、60日移動平均線で下げ止まって、また陽線で上がって行って、そして5日移動平均線の上でこう動いています。5日移動平均線の上にある限りは、買い玉は持ったままでいいのですね。私はまだトレードしません。その後、5日移動平均線を陰線で割り込んで、5日線の内側にローソク足がある限りは上がらない。

加藤：本当ですね。

相場：ずっと。この赤いのが5日線ですけども、ローソク足が5日線の下にあるじゃないですか。ずっと下がっていきます。その間に、今度は20日線を割り込みます。ですから、5日線を割り込んで、20日線も割り込んで、60日線も割り込んでしまいました。ということは、これは強いかわ弱いかというと弱いわけです。

そこそこ下げたので、いったん下げ止まって、上がったのだけれども、5日線を越えるのがやっとで、また5日線を割り込んでしまった。この辺からは空売りで全然いいのですけども。そして、下がってきました。また頑張って上げて、5日線の上にいるのだけれども、今度は20日移動平均線に当たるとまた下げてしまいます。前の安値も割り込んで、なかなか5日移動平均線を越えられない。またやっと頑張って上がった。また20日線に当たったけれども、20日移動平均線に当たると下げてしまいます。これで2回目ですよ。ずっと下げてきて、20日移動平均線に当たる。下げてしまう。また20日移動平均線に当たる。下げてしまう。そして、この下値を割り込む。この下値を割り込む。そして、この下値を割り込む。これは非常に弱い相場です。私はこれは空売りで全部取ります。全部、空売りで取りますね。

加藤：全部取る？

相場：もし買いだけしかやらない人だったら、この下げは取れないですから。

加藤：そういうことですよ。

相場：指をくわえて見ているだけですからね。

さて、次の問題ですが、ここから先は見えないのですが、ここから先は私がトレードをやってお見せしようかと。実際にプロのトレードをね。

ここで特徴的なのは、下がってきて20日線に当たると下げてしまいます。つまり、20日移動平均線を全く越えられていないのです。ですから、基本的には弱いです。弱いながら、

またここで5日線を上げて20日線で負けてしまう。5日線を越えて20日線で負けてしまう。今、5日線を越えていきました。今度、20日線に当たって、負けるかどうか。これをちょっと見ていこうと思います。

今は売り買いが私は0です。何もしない。相手の出方が分からないから、また20日移動平均線に当たって下げるようであれば、売りを入れていこうかと思っています。こうやって、あんなったらこうなる。もし20日移動平均線を越えたとすれば、今まで挑戦して負けて、挑戦して負けたのが、越えたとしたら次は60日移動平均線に挑戦するはずなのです。そこは買っていこうと。

では、行きます。いったん下げたけれども、5日移動平均線を保っています。ここで頑張れるかどうか。陰線だけれども、一応、上に保った。次は、今まで越えられなかった20日移動平均線を越えるかどうか。一回超えられずに二回超えられず今度どうか、

ここじゃまだわからないですね。ちょっと様子を見ていきましょう。明日、越えた。

加藤：越えてきましたね。

相場：今まで越えられなかったものを越えたということは、1ステージ上がったわけですから、ここでちょっと買いを入れてみようかと思っています。まだこれははっきりしない。よく本とか雑誌をだったら「これは買いだ」なんて、あんなのは分かるわけがありません。ここで20日線を越えられなかったので、まず買いを3,000株入れて様子を見よう。

次行きます。加藤さん、これはどう思いますか。2日連続20日線の上にあります。今まで、過去3カ月間、2日以上、20日線の上に出たことはありませんよね。

加藤：ないですね。初めてですね。

相場：初めて。これは強いか、弱いかという？

加藤：強い。

相場：強い。ちょっと1ステージ上がった気がしますから、買いを足してみましよう。行きます。今、空売り0、買い5,000株となりますね。

さて、陰線ですけれども。

加藤：まだ上にいるからいいのですね。

相場：はい。5日線の上、20日線の上ですよ。3日連続、20日線の上、5日線の上。これは強いですか。

加藤：強いです。

相場：強いですね。もうちょっと様子を見てみましょう。下がってしまいました。

さて、これでどうするかなのですが、流れとして、これは下がったから弱いかという、20日線を越えられなかったのが3日間も20日線の上にあるわけですから、ステージ的にはやや上。

加藤：そうですね。ちょっと流れが変わった感じがしますね。

相場：流れが変わったのです。いい言葉。そのとおりですね。今まで模擬試験で100番以内に入れなかったのが、70番ぐらいに入ってきて、次、100番に落ちた。でも、70番に入った実績というのは頑張ったわけじゃないですか。これはステージが変わった気がするのですよ。

ただ、5日移動平均線と20日移動平均線を陰線で割り込んでいますから、もしかしたら下げが浅くて、そして上がる可能性が出てきたわけです。このときにもう割ってしまえば、下がってしまうのです。ところが、20日線の上に3日間出たというのは、買いが強くなってきているわけですから。ただし、これは下がってしまうと怖いから、ヘッジを入れます。

加藤：ヘッジを入れるのですね。

相場：3,000株の空売り。そうすると、今、私は3,000株の空売りを持ちながら、本玉、上げを狙っている5,000株の買いを持っています。こういうポジションになります。従って、本玉はこちらです。これで上げを狙いたいだけけれども、今、一時的に下がっているから、空売りの保険をかけよう。これをヘッジといいます。

では、次に行きましょう。下がってきましたが、ちょっと下げが弱い感じがします。

加藤：そうですね。

相場：陽線ですし、1,000円という区切りのいいところで止まっているし、小さいローソク足というのは朝と引けの株価の動きがほとんどなかった。これはいいかもしれません。今、私は空売りを3,000株、買いを5,000株持っています。これはちょっと様子を見てみましょう。

戻りました。これは今まで越えたことがない20日移動平均線を3日間越えて、2日間、下に落ちただけですぐに戻りました。つまり非常にいい状況のところにて、ちょっと落ちて、すぐ戻ったのです。これは強いのですよ。

加藤：強いですね。

相場：なので、買いを足します。空売りはもうちょっと危ないから持とうという考えと、もう切ってもいいのではないかな。もう保険は要らないのではないかなという考えの両方があるのですが、5日移動平均線と20日移動平均線、重要な移動平均線を同時に越えているわけですから、これはちょっと下げただけですぐ戻ったということの評価すると、多分もう売りは要らないと思います。

加藤：切っていいのですか。

相場：はい。保険を切りました。従って、先ほどまで入れていた3,000株は、保険のために入れたけれども、保険が要らなくなったので切りました。こうやって動かしていくのを「建玉の操作」といいます。売りなら売り、上がるから買い、下がってもそのまま見ていたら塩漬けになってしまうのではないですか。

加藤：そうなのですよ。

相場：だから、売りなら売り、買いなら買いではなくて、買いが本玉なのだけれども、危なくなってきたら、売りヘッジをやる。こういう操作をしていくのが本物のプロのやり方。

加藤：その時々に合わせて動かしていかなくてはいけないのですね。

相場：そうですね。将棋だって、いきなり王手はないじゃないですか。

加藤：そうですね。いろいろこうね。

相場：そう、あそこを切り崩して、あそこを切り崩して、そして徐々に王手をかけていく。こういう建玉の操作。英語で言うと、tategyoku no sousa といいますね。行きます。英語もできるんだよね、俺。次、行きますよ。

加藤：今の、外国人の方、分かったかな。

相場：分かったと思いますよ。

行きます。陰線ですが、前の高値を超えていますから、ここは我慢してみましょ。下がってきましたが、ここで右往左往しない。20日線と5日線の上ですから、上がって下がっ

でも、これは大丈夫。我慢しちゃいましょう。

あした。20日線の上、5日移動平均線の上、切り上がっていますよね。前の高値も超えているし、この高値も超えていますから、これは強いか弱いかというと？

加藤：強いです。

相場：強い。なので、買いを二つ足します。これで空売り0、買い1万株になりました。途中、こういう紆余曲折をくぐり抜けて上昇。今まで越えられなかった20日線を越えて、ずっとこの上にいますから、ステージが変わったということになります。今度は60日線というのがあって、大体、ここから今、上げまして、1カ月たってきているわけです。上昇率も恐らくここが950~960円で、今、1,100円ですから。

加藤：随分上がってきていますね。

相場：随分上がったのです。よく株価2倍、3倍とかいうけれども、それはまずめったにないです。普通は10%上がった、15%上がったら、これは暴騰です。だから、このぐらいでそろそろかなという気がするのですが、基本は60日移動平均線というのが節目になりますね。このときも20日線を使いました。60日線で弱ったら、1回売ろうかなと思っています。そういう流れから次が読めるのです。

加藤：読めるのですね。先回りができるということですね。

相場：そうです。それは先ほど、ここが割ってきて、こうなって、ああなってと、いろいろなことを言いましたよね。あれをリーディングというわけです。リーディングの練習をたくさんすると、後が読めるようになります。加藤さんもなります。皆さんもなります。

次に行きます。60日移動平均線に当たって、陰線。やはりもう1カ月上げて。

加藤：ちょっと疲れませんか。

相場：疲れました。ステージは高くなったとはいえ、やはり多分、ここでいったん。これはよくあることです。60日線に当たって下げる。ここで20日線に当たって下げた、20日線に当たって下げたのと一緒ですから、ここはちょっと少し手仕舞いする必要があるかなと。あるいは売りを入れていこうかなという感じがします。次の下げに備えて、売りを2,000株入れて、買いを半分にしておこうかな。こうすると、5,000株分は手じまいます。次の下げに備えて、空売り入ってます。

行きます。何で買いは切らないのか。まだ上がっている最中ですし、確実に下げるかどうか



か分からないから。

次。やはり 60 日線で下げてきましたから、ここは空売りを増やします。そして、買いをいったん切ります。

18:56

加藤：いったん切るのですね。

相場：切ります。行きましょう。ただし、下がってしまうかなということですが、そうでもなくて、今まで 20 日線の上に出られなかったのが、20 日線の上にとずっといますよ。9 日もいます。しかも 60 日線にチャレンジしていますから、だんだん良くなってきているのです。だから、この下げが浅くて、20 日線を割らないでまた上げれば、次は 60 日線を越えてくるのではないかと。こういう見方ができます。

では、あした。5 日線を割ってきました。空売りが 5,000 株入っています。5 日線を割ってきたから、売りを追加します。行きますよ。今度は 20 日線で止まるかどうか。

行きますよ。ぎりぎりです。窓を開けているから、これは弱いかもしれませんが。窓を開けるとするのは、ローソク足はこう連なって下がっていくのですけれども、こことここが急に下げました。ちょっと弱いかもしれませんが。でも、売りが入っているから、全然問題ないです。

ここまで OK

加藤：そうですね。

相場：次に行きますよ。ただ、考え方によると、今まで 20 日線を越えなかったのに越えるようになって、60 日線に当たったわけですから、この辺で止まる可能性もあります。ということは、次の上げに備えて、買いを入れておく必要が出てきます。

行ってみましょうか。だから、下がっているときに、下がっているから、空売りがもうかっているから「イエイ、イエイ」じゃなくて、次に上げるのだから、次の上げに備えて買いを入れておかないと。

加藤：そうか。ただ、今を喜んでいては駄目なのですね。その先をちゃんと考えていかないといけないのですね。

相場：そういうことです。次に上がるわけだから。

行きますよ。ちょっと買いを増やしておこう。そして、売りを減らしておこうということになります。空売りがもうかってきたのが、やや手じまってきました。

次。ちょっと踏ん張っていますね。

加藤：そうですね。頑張っています。

相場：もう1日。1日1秒でできてしまいます。

加藤：そうですね。

相場：次に行きますよ。割ってきました。ということは、踏ん張って割ってきたわけだから、やはり売りヘッジが必要です。そうすると、今度は空売り5、買い5ですから、下がっても別に今の利益は変わりません。下がれば空売りがプラスになるし、そのときに同じだけ買いがマイナスになりますが、これは次の上昇に使いましょう。そして、上がれば買いがプラスになりますが、空売りはその分、マイナスになりますから、どちらに動いても、これだったら大丈夫です。

加藤：大丈夫ですね。

相場：でも、私の見通しとしては、20日線の上にいることが長いし、60日線に到達したので、いずれ上がるはずだという読みがあります。

下がってきましたが陽線、ここはもう前の安値というのがここか、もっと下げてもここです。

加藤：そうですね。

相場：これ以上下げない感じがします。なぜならば、先ほど言った、ここ、ここ、そして、ここ。強くなってきているからです。従って、ここで買いを足します。空売りはやや切っていくみましょう。

行きます。何とか踏ん張ってきましたね。1日見ましょう。下げて、横ばい。そうすると、下げ止まった感じがしますね。下げて横ばい。下げ止まった。上がって横ばいも上げ止まった感じがする。捕まって白バイ、これは大変です。

加藤：それは嫌ですね。

相場：じゃ、行きますよ。上がってきたね。ただ、陰線ですね。ちょっと我慢しましょうか。建玉はどうなっているかな。空売りがまだ入っているんだ。もう1日見て。今、これは下げてきて、ここは割らないなという感じがもう1日見られれば、空売りを切って、買いを足しましょう。

こうやって日一日、今日よりあしたの方が先のことが見えるし、あしたよりあさっての方が先のことが読めるから、それに合わせて売り買いを増減していくのですよ。これがプロの

技です。

ちょっと駄目だね。だから、売りを切らなくて良かった。

加藤：良かったですね。

相場：次、行きますよ。ちょっと割ってきました。1日我慢しましょう。もう1日我慢しましょう。

加藤：並んでいます。

相場：並んできました。下がって、横ばい。

行きます。これはヘッジを入れましょう。ちょっとドキドキします。ヘッジを入れて、ゴー。このときに、売りをちょっと減らしましょう。7ぐらいにしましょう。こうすれば大丈夫です。まだ駄目だな。

横ばい。いいね。越えてきました。多分、これで行けますから、今度は売りを切って、買いを足します。

そして、行きますよ。いいでしょう。今度、また60日線に達しました。1回、60日線まで上げて敗れ去っても、実はここで止まると思っていたのだけれども、前の安値でした。今度、2回目、60日線にトライしますから、今度は越えていく可能性があります。あるいは越えて、ちょっと下げても上がっていくでしょう。こうやってやっていきます。

もう今、これで切っても問題なく、実は私は何ができたかという、この辺で買った買いでここまで取っています。そして、空売りでこの辺まで下げを取って行って、次の上げに備えて、この辺は紆余曲折しながら上げを取ったという感じですね。こうして住友鉱山だけをずっとやっていくということ。これがプロの建玉の操作です。本番はもっと慎重にやります。もっとたくさんの玉を入れます。

加藤：いや、でも、プロのトレードを垣間見ることができました。

相場：イメージはこんな感じです。

加藤：でも、やはりトレードしていく中では、暴落とかということもあるわけではないですか。

相場：ありますね。

加藤：でも、相場さんのこのトレード手法を見ていると、あまりそれを怖がらないでもいい

のかなという感じがしたのですけれども。

相場：問題ないですよ。ヘッジが常に入りますからね。

考え方として、A、B、C という考え方があります。実はこういう考え方です。絵に描いてご説明します。絵に餅でも描こうかな。絵に描いた餅、つまらないですね。

加藤：絵に描いた餅。

相場：まず下がった後、横ばい。横ばった後、上げていく。上がっていくということは買いが多いわけです。その後、買いがずっと続くはずがないので、横ばって行って、そして、横ばった後は、ここは買いが多いのだけれども、買いが減ってきて、やがて売りになってきて、また下がって行ってとこうなっているわけですが、これで考え方が、ここを私は A 局面と呼んでいます。下げの局面ですね。

加藤：下げの局面は A。

相場：そして、横ばいを、私は B 局面と読んでいます。B 局面が終わった後は、基本は C 局面といって上昇していきます。C 局面の後、ここは横ばいですから、何局面ですか。

加藤：B 局面。

相場：B 局面。B 局面が終わった後、下げますから、ここは？

加藤：A 局面。

相場：A 局面が終わった後、横ばいは？

加藤：B 局面。

相場：B 局面。その後は？ C 局面。ABC の繰り返しなのです。ただ、このように下が切り上がっていったり、下が切り下がってきたりということで、先ほどの住友鉱山も実は A 局面、B 局面、C 局面、A 局面、B 局面、C 局面。この後、何局面になりますか。横ばいだから？

加藤：横ばいだから、B。

相場：Bになりますね。A局面、B局面、C局面、またB局面。その後はまたA局面という繰り返しになります。

こういう構造をいろいろ見ていくと面白いですよ。日経平均株価のA局面、B局面、C局面がきれいに見えるときがたくさんあります。長い期間で見てください。ここは3.11のときです。これはA局面、B局面、C局面。もっと前に行きましょうか。もうちょっと長い期間にしてください。この後、A局面、B局面、C局面。小さなA局面、B局面、C局面。小さなA局面、B局面、C局面。もうちょっと見ますよ。日経平均。A局面、B局面、C局面。もうちょっと行きますよ。大きなA局面、B局面、C局面。それから、小さなA局面、B局面、C局面。こういうように上げ下げを繰り返している。こういう下落の途中でも、A局面、B局面、C局面。A局面、B局面、短いC局面ということで、こういう株価の動きを捉えて、そして、先ほどお見せしたように、株価の動きが分かっただけではうまくトレードはできません。売り買いを現実にしなかったら、1円にもならないわけですから、具体的にA局面、B局面、C局面をしっかり捉えた上で売り買いを、先ほどの建玉の操作をしていくことで、具体的な利益に変えていくことができます。

そして、やはり売りができないと。

加藤：そうですね。やはりうねっているのですから、そのA、B、C。AとCを取れないということですよ。片側だと、やはり利益も半分になるということですよ。

相場：半分になります。そういうことです。

それと、私の今のトレードでご存じかと思います。お気づきかと思いますが、日経平均株価を見ていません。それから、外国為替。今、ドル円がいくらかなんか、全く気にしていません。

加藤：確かに。

相場：それから、業績がいくら、どうなんだというのも全く気にせずに、何も考えずに住友金属鉱山のチャートだけを見て建玉の操作をやりました。これが再現性。他の弟子たちも同じようにやって、みんなできています。

加藤：でも、皆さん、いろいろなそういう情報を気にされるじゃないですか。

相場：気にしない方がいいです。

加藤：いいのですか。

相場：全く気にしない方がいいです。

よく塩漬け株をたくさんお持ちだと思っただけです。過去に買った。でも、下がってしまったので、売れずに。

加藤：手仕舞いするともできなくて。

相場：漬かってしまっている。塩漬け。これは先ほどのように下げ始めた。5日線を陰線で割ったら空売りを入れたじゃないですか。あれをしておけば、塩漬けになりません。

加藤：そうか。実際、塩漬けになっていっても、空売りが入っているから、それも利益になるということなのですね。

相場：プラスになっていますから。ヘッジが入っていないで、買いだけで下がってしまっているから塩漬けにせざるをえないということで、このトレード方法ですと、塩漬け株というのは無縁ですね。

加藤：相場さんのトレード方法だと、本当に、その塩漬けという言葉は要らないですね。

相場：要らないですね。一つだけ、私のトレードを見ていただきました。

加藤：こうして建玉の操作を見せていただくと、やはり長い間、トレードしていくと、暴落ということにあうわけですね。

相場：ありますね。

加藤：何かその暴落もあまり怖くないかな。そんな気がしてきましたね。

相場：そうですね。むしろピンチはチャンス。暴落の時期をたくさん利益が取れる場面に変えていくのがやはりいいですね。

加藤：だって、普通の投資家さんは、やはりそれは恐怖じゃないですか。

相場：そうですね。

加藤：でも、相場さんのトレード方法だと、それがチャンスになる。

相場：チャンスになります。現に私の資産の 65%は空売りで取った利益です。

加藤：半分以上は空売りの利益なのですか。

相場：下げで取りました。そうです。だから、世の中で、申し訳ないけれども、皆さんが下がって苦しんでいるとき、私は空売りで利益が積み上がっています。私の弟子たちも、上昇で取った利益よりも空売りで取った利益の方が多いと思います。

加藤：そうなのですか。実際にそれを見せていただけるのですか。

相場：そうですね。今、お見せしようかと思います。これは去年、2015 年 8 月に大きな下げがありました。

加藤：ありましたね。

相場：これをこの私のトレード方法でやってみるとどうなるかというのをお見せしたいと思います。

加藤：お願いします。

相場：では、チャートの方をご覧ください。今、画面に出ておりますのが、この時点が 2015 年 7 月 31 日です。加藤さん、ここでもうちょっと長い期間で見てくださいね。

加藤：はい。

相場：チャートというのは、短い期間で見ることも大事ですし、長い期間で見ることも大事です。

加藤：時間軸を変えて見る。

相場：はい。例えば短い期間で見るとこうですよ。これではよく分かりません。

加藤：分からないですね。

相場：もうちょっと長い期間で見えていくと、こういうことになっているわけです。長過ぎる

と、これでは全くよく分からないですね。そうすると、この辺で見えていくと、上昇期間はどれくらいでしょう。いちばん底がここです。

加藤：かなり長いですね。

相場：10 カ月あります。ただ、いったんここで下げているから、こう上がって、いったんここで60日線まで下げているから、通常、上がった株が60日線まで下げるときはそこそこ大きく下げないと60日線に当たらないのですね。だから、ここをそこと考えると7カ月。だいぶ上げてきていますね。通常、3カ月上げると下げるといわれていますし、6カ月上げれば、ほぼ下げるといわれています。実は2015年7月31日時点で、ここで買った人が株を持っているとすると儲かっていますか。

加藤：だいぶ利益が出ていますね。

相場：儲かっていますね。ここで買った人は？

加藤：も、利益が出ています。

相場：利益が出ていますね。ここで買った人は？

加藤：も、出ています。

相場：利益が出ています。ここで買った人も利益が出ています。ここで買った人も利益が出ています。その「も」というのはいいですね。ここで買った人「も」、利益が出ています。ここで買った人も利益が出ています。ここで買った人も利益が出ています。

ということは、この2015年7月31日時点では、多くの方が利益を持ったまま、含み利益を持ったまま、株を持っているわけです。株というのは、お墓に持って行って、埋めてもらうために持っているわけではありません。利益確定して、豊かな生活を送るために持っています。

加藤：そうですね。

相場：ということは、みんなが利益ということは、いずれ我慢できなくなって、売るのがちょこちょこ出てきます。ということは、先ほどまでご説明した、上がってきたから、そろそろ利益確定する人が出てきて、やがて横ばって、この辺を見ていると売らなかった人がまずいということで、がっと売ってきます。従って、今、どの辺にあるかということ、この辺にある



ような気がします。

チャートに戻してみましよう。上がってきて、横ばってきていませんか。

加藤：そうですね。

相場：これは上がっているでしょう？ 徐々に。ここを見てください。ほとんど上値が変わらない。下値も一定。上値が横ばい、下値が横ばいということは、これでいう、この辺に。

加藤：B局面。

相場：B局面になります。よく覚えました。

では、戻してみましよう。ほら、横に動いています。下値がこうですよ。上値がこう。B局面です。B局面ということは、もう一度、くどいけれども、上がってきた後のB局面だから、そろそろ下げに移行する可能性が高い。

加藤：高いですね。

相場：本来だったら、ここから空売りを仕込んでいくのですが、つまりそろそろ下げるかもしれないから空売りを入れていく。これがプロ級なのですが、上がっている最中ですから、なかなか怖いです。

加藤：そうですね。

相場：まず、では、売りにちょっと入れておきましよう。問題はこの前の高値を超えられるかどうかです。

では、8月になりました。値動きはほとんどないです。

加藤：ないですね。

相場：ほとんど動きません。

加藤：横ばい。

相場：この空売りはもうけようなんて思っていませんから。ただ入れただけですから、別にこれでもいいのですよ。

加藤：00のままにして。

相場：でもいいし、買っていてもいいのです。いずれ動いたときに、だんだん見定めていきますから。上がってきました。買っていて良かった。開いて良かった、セブンイレブンですね、あれはね。行きますよ。上がってきて。問題は、この前の高値を超えられなければ、きっと上がって横ばいになる可能性があります。様子を見ます。まだ分かりません。だから、分からないのですよ。神様ではないのだから。でも、様子を見るうちに、徐々に徐々に敵の動きを読んでいきます。

今、買いを持っていますから、この利益なんて関係ないです。相手を見るために、ただ玉を入れておくだけですから。

さて、下がってきました。この6月の高値、7月の高値を超えられませんでした。そして、下値はもうこの辺ですよ。しかも、1回、ここで捻挫をしています。

加藤：そうですね。

相場：ここまで来たということは、ここまで売られる素養があるということですね。

さて、5日移動平均線と20日移動平均線をいっぺんに陰線で割ってきましたから、一応、空売りを入れましょう。

加藤：ちょっと怖いですけどね。

相場：怖いから、売りを入れましょう。買いは切っておきましょうという作業をすればいいわけです。だから、今の買いがマイナスになったとか、細かいことは言わずに、流れに合わせて建玉の操作。英語で言うと tategyoku no sousa をしていくのですね。そして、最後、勝ちに持っていきます。

これは問題ありません。まだ5日線の内側、下にあるから弱いです。5日線の上にちょっと出たけれども、そんな。何かまだ弱い。このときは60日線に当たって、戻し。

加藤：戻りましたよね。

相場：また当たって戻しましたが、当たって戻ったときにだいぶ上がったでしょう？

加藤：はい。

相場：当たって戻ったときに。

加藤：小さいですね。

相場：そう。ほとんど上がらずに下げてしまいました。上がっても 60 日線に行くのにここ。またちょっと上がって、すぐ 60 日線。今度はここに当たって以来、ここまで 60 日線に触らなかったのだけれども、今度はすぐ。これは強いのか、弱いのかという？

加藤：弱い。

相場：弱い。売りを追加しましょう。そうすると、こう。さて、今度は 60 日線を割ってきて、ここが 100 日線なのです。これは使わなくていいのですけれども。これを割ればもう弱いです。弱いですから、ここまで 20 週移動平均線というのですけれども、割ってきて弱い。だから、追加しましょう。

加藤：売りを追加。

相場：はい。窓を開けました。ということは、弱いでしょう？

加藤：はい。

相場：普通は、この翌日は下がっても、ここから始まって下がるのに、いきなりでしょう？

加藤：そうですね。ちょっとつながった感じになりますよね。

相場：そう。これを窓を開けるといいますね。英語で mado wo akeru と。madoake といいます。ということは、これは弱いから、売りを追加しましょう。窓を開けるときは弱いということです。

加藤：あらっ。

相場：また窓を開けましたから、弱いので、売りを追加します。ただ、あまり下げたしまうと、もう上がるかもしれないから、ここで売りをたくさん追加するのはやめた方がいいのです。

加藤：そうですか。

相場：ここだったら売りを追加してもいいのだけれども、ここまで来るとそろそろ戻る可能

性があるから、あまり追加はできません。大体、陰線新値 8 本とされていますから、5 本です。もうちょっとですね。6 本、もうそろそろ、上ヒゲが 1 回、ここにあるということは、この日は下げっぱなしではなくて、一時的にここまで戻ったのです。

加藤：そうですね。

相場：では、これはもう相当利益ですから、切ってしまいましょう。ということで、その後、実は、こうなって、こうなっていました。ここが 8 月の暴落。ここは 9 月です。このように暴落もしっかり見ていけば、何とか利益に変えることができるのですね。

加藤：そうなのですね。ピンチをチャンスに切り替えることができるのですね。

相場：なかなか難しいですけども、練習を重ねていけば、何とかできるようになります。ですから、いつチャイナショックが起こるんだとか、こういうことは分からないです。

加藤：それはもう本当、どなたも分からないですものね。

相場：分かりません。ただ、チャートに全てが表れているから、チャートの中で上がって横ばい。そろそろ何か危ないな。

加藤：そういうことを感じられるようになるわけですね。

相場：そうです。リーディングをするとね。感じた上でも、売り買いができなければ駄目だから、先ほどやったように、買いから入っていたでしょう？

加藤：はい。

相場：あるいは売りから入っていたでしょう？ それでも最後、チャートを見ながら変えていきました。

加藤：その空売りと買いを臨機応変に変えていけるのですね。

相場：そうです。これが建玉の操作ですね。ですから、売りは下がってからでも遅くないです。

加藤：随分下がってしまって、もう間に合わないのではないかと思う方がいらっしゃいます

よね。

相場：そう。途中から入っても、全く大丈夫です。

加藤：大丈夫なのですね。そういうことも、やはり練習を重ねていくと分かるようになるのですね。

相場：分かるようになります。下がる前の予兆も何となく分かるようになります。今まさに上がって横ばってきたから、そして、何となくこの60日線への触り方が頻繁になってきた。怪しいぞと。こういうこともできるようになりますよ。

加藤：ということで、そろそろ第2話の方もお時間となりました。1話、2話と相場さんにいろいろお話を伺ってきたのですが、やはりチャートに全てが表れているということで、いろいろな情報がたくさん、私たちの周りにはありますけれども、それに惑わされない。チャートのみを信じて、トレードしていく。

相場：そうです。チャートと加藤さんのみを信用して。

加藤：いや、それは相場さんです。日々、練習を重ねて、進化をしていかなければいけないということですね。

相場：そういうことですね。

加藤：お話の中には、上昇、横ばい、下降で、A、B、Cという局面があるということも教えていただきましたし、やはりリーディングは大切ですね。

相場：大事です。リーディングね。これ、先ほど1ページで、4カ月だけれども、40年分ぐらいやったら、結構、頭に入るのではないですか。

加藤：やはりこの手法を学べば、いろいろな場面があると思うのですが、それに慌てず対処していけるかなという感じ。

相場：そういうことになりますね。株式トレードが楽しくなります。

加藤：そうですね。さて、今回は最終回になるのですがけれども、相場師朗さんのトレードがご覧の皆さままでできるようになってしまうというプロジェクト「相場師朗の株トレード道

場」の内容を公開いたします。必ずチェックしてくださいね。

今回もご覧の皆さま、ぜひ感想をお寄せください。特典がございます。その特典なのですから、けれども。

相場：ええ。加藤さんとデートできる。

加藤：いや、じゃないです。

相場：あ、違いますか。

加藤：皆さんのトレードに役立つような特典ですので。

相場：加藤さんとデートした後って、トレードの調子が良くなるんじゃないかな。

加藤：そうかな。そういう方がいてくださるとうれしいんですけどもね。

実は皆さんに代わりまして、私が相場さんに質問をします。それを1話、2話、3話と、全部に感想をお寄せいただくと、それが完成形になります。ですから、全てに感想をぜひお寄せいただきたいと思います。

相場：なるほど。ということは、加藤さんはもうラジオで「相場師朗の株塾」をしばらく一緒にやっているから、ある程度、トレードの知識は、基礎的なことは身に付きました。でも、いろいろ疑問があるということは、視聴者の皆さんと同じぐらいの質問がいっぱいあるわけですね。

加藤：そうです。

相場：それをどどんぶつつけていただく。私はそれに答える。それを皆さんにお配りする。いいですね。俺も欲しいな。

加藤：相場さんはお答えいただくんですから。

相場：そうかそうか。

加藤：ですので、ぜひ第2話も感想をお寄せください。お待ちしております。相場さん、行きましょうよ、やっぱり。

相場：そうか。やらなきゃ。

加藤：締めはこれですよ。

相場：じゃあ、最後の締めに行きましょうか。「株は技術だ」。

相場：そう、そういうこと。今までは20日線を越えられなかった。これはステージが上がったのだから、これは上がるのですよ。だから、買いを足します。

行きますよ。あした。さすがに実は上げる期間を見たら、ここから何だかんだ言って、上げ下げしながらも、もう1カ月上げているわけです。金額にすると1,000円割れから、もう1,200円に迫ろうとしています。2割近く、間もなくですね。60日移動平均線。このとき、20日に当たってやられ、20日に当たってやられ、20日を越えてきました。今度は60日移動平均線に当たって下がってしまう可能性があるから、ましてや陰線ですからね。ここで半分切っておきましょう。そして、売りを二つぐらいで。そうすると、5,000株の利益はもうポケットに入って、もう5,000株は60日線を抜ければいいけれども、抜けなければちょっとね。

行きますよ。やはり60日線に当たると下がります。なので、売りを増やします。3,000株足して、5,000株。もう買いは多分要らないでしょう。

行きます。5日移動平均線を陰線で割ってきましたから、これは弱いから、売りを二つ追加します。そして、今度は20日線で下げ止まればいいのだけれどもということなのですが、ちょっと見ていきましょう。

さて、窓を開けて下げています。株価というのは、連なって上がっていくのですが、窓を開けているときは非常に弱いですね。

相場：加藤さん、20日線を越えられず、ただ5日線を越えてきたじゃないですか。なので、これは越えるかどうかなのですよ。